

[省令第8条の4の5 (1,000トン以上排出事業者用)]

様式第2号の8 (第8条の4の5関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月22日

(宛先) 松本市長

提出者

住所 北海道千歳上長都1061番地2

氏名 株式会社IHIアグリテック

代表取締役社長 磯本 聡一

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

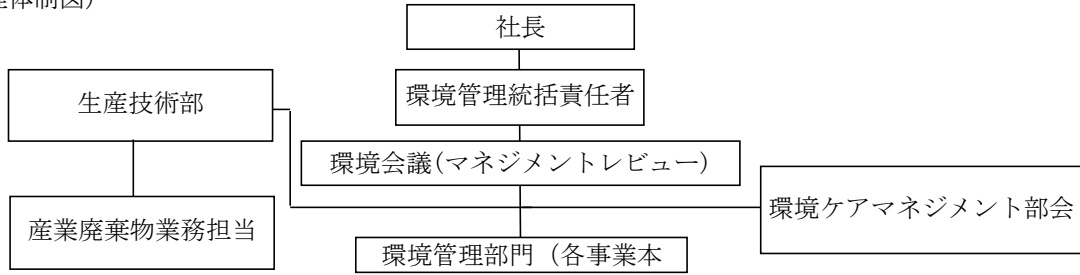
電話番号 0123-26-1122

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社IHIアグリテック 松本本社
事業場の所在地	長野県松本市石芝一丁目1番1号
計画期間	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	2611 農業用機械製造業 (農業器具を除く)
② 事業の規模	売上額 ¥6,201百万円
③ 従業員数	450名
④ 産業廃棄物の一連の処理工程	別紙2のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

		【前年度(令和4年度)実績】					
産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	
排出量	756.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	11.37t	
産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鋳さい	水銀使用製品廃棄物				
排出量	5.83t	1,633.63t	0.18t				
(これまでに実施した取組)							
プラスチック製の運搬用パレットを廃棄せずリターナブル運用を徹底した							
		【目標】					
産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	
排出量	700.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t	10.00t	
産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鋳さい	水銀使用製品廃棄物				
排出量	5.00t	1,600.00t	0.15t				
(今後実施する予定の取組)							
廃棄物置き場の整備・拡張・分別品種の細分化							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 金属(有価物)とプラスチックの混合品を産廃として処理
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物置き場整備・拡張による分別品置き場の確保

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項							
①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)						
実施実績無し							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)						
実施予定無し							
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項							
①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	700.00t					
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量						
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量							
(これまでに実施した取組)							
汚泥の脱水による減量化							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	650.00t					
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器く	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量						
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量							
(今後実施する予定の取組)							
汚泥の脱水による減量化							

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール等)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量						
(これまでに実施した取組)							
実施実績無し							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール等)	紙くず	木くず	金属くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量						
(今後実施する予定の取組)							
実施予定無し							
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
①現状	【前年度（令和4年度）実績】						
	産業廃棄物の種類	汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール等)	紙くず	木くず	金属くず
	全処理委託量	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	11.37t
	優良認定処理業者への処理委託量	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t		0.42t
	再生利用業者への処理委託量	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	10.95t
	認定熱回収業者への処理委託量						
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量						
	産業廃棄物の種類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード等)	鉱さい	水銀使用製品廃棄物			
	全処理委託量	5.83t	1,633.63t	0.18t			
	優良認定処理業者への処理委託量	5.83t		0.18t			
	再生利用業者への処理委託量	5.83t	1,633.63t				
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
(これまでに実施した取組)							
処理委託業者への視察実施と収集運搬業者の弊社構内作業時の安全喚起							

産業廃棄物の種類		汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡スチロール含)	紙くず	木くず	金属くず
		全処理委託量	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t
優良認定処理業者への処理委託量	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t		1.50t	
再生利用業者への処理委託量	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t	8.50t	
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量							
産業廃棄物の種類		ガラス・コンクリート・陶磁器くず(石膏ボード含)	鋳さい	水銀使用製品廃棄物			
全処理委託量	5.00t	1,600.00t	0.15t				
優良認定処理業者への処理委託量	5.00t		0.15t				
再生利用業者への処理委託量	5.00t	1,600.00t					
認定熱回収業者への処理委託量							
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者へ処理委託量							
(今後実施する予定の取組)							
処理委託業者への視察実施と処理委託業者が安全に委託廃棄物を処理できるように社内分別の細分化							
※事務処理欄							

②計画

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が13以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1

産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処 理 事 項		産 業 廃 棄 物 の 種 類 (実績値・計画値)											合 計		
		汚泥(上・下水、建設、その他)	廃油	廃プラスチック(廃タイヤ、発泡スチロール)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器	鉱さい	水銀使用製品廃棄物					
排出抑制に関する事項	前年度排出量(実績)	756.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	11.37t	5.83t	1,633.63t	0.18t				2,741.33t	
	本年度排出量(計画)	700.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t	10.00t	5.00t	1,600.00t	0.15t				2,623.15t	
自ら行う(行った)再生利用に関する事項	前年度実績														
	本年度計画(目標)														
自ら行う(行った)中間処理に関する事項	自ら行う(行った)熱回収の量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	自ら中間処理により減量する(した)量	前年度実績	700.00t												700.00t
		本年度計画(目標)	650.00t												650.00t
自ら行う(行った)埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	前年度実績														
	本年度計画(目標)														
処理の委託に関する事項	全処理委託量	前年度実績	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	11.37t	5.83t	1,633.63t	0.18t				2,041.33t
		本年度計画(目標)	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t	10.00t	5.00t	1,600.00t	0.15t				1,973.15t
	優良認定処理業者への処理委託量	前年度実績	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t			0.42t	5.83t		0.18t			320.53t
		本年度計画(目標)	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t			1.50t	5.00t		0.15t			294.65t
	再生利用業者への処理委託量	前年度実績	56.00t	142.31t	25.12t	90.67t	76.22t	10.95t	5.83t	1,633.63t					2,040.73t
		本年度計画(目標)	50.00t	130.00t	23.00t	85.00t	70.00t	8.50t	5.00t	1,600.00t					1,971.50t
	認定熱回収業者への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	前年度実績													
		本年度計画(目標)													

【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。

別紙2

産業廃棄物の一連の処理の工程

